

## 2. 環境目的・目標の計画と実績

### (1) 2007年度の実績と評価

環境管理活動上、電力所が重点的に取り組むべき課題に対して、目的・目標を定め環境活動に取り組んでいます。

#### 2007年度EMS目標の取り組み結果

項目	計画		結果	備考
	目標値	実施方法		
事務所内電力使用量の削減	1999年実績から22%削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼休み及び時間外の不要な照明の消灯</li> <li>・冷暖房の温度設定(冷房28℃、暖房19℃)</li> <li>・空調運転停止時間の管理</li> <li>・不使用OA機器の電源断の実施(平日、週末電源断対象機器の明確化)</li> <li>・省エネ標語類の設置</li> <li>・執務室他不要蛍光灯の間引き</li> <li>・時間外の適正実施、管理</li> <li>・自動点灯スイッチの導入拡大</li> <li>・空調効率UP対策の実施(夏場のブラインド運用、エアコン吹出し口調整)</li> </ul>	1999年実績から21.7%削減	ほぼ目標達成
事務所活動における紙の使用量削減	2002年実績から28%削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両面印刷、両面コピーの徹底</li> <li>・コピー後の設定リセットによるミスコピー防止</li> <li>・印刷前のプレビューによるミスプリント防止</li> <li>・コピー用紙のA4サイズ統一</li> <li>・ミスコピー用紙の裏面活用</li> <li>・プロジェクターの活用(会議における紙の使用量削減)</li> </ul>	2002年実績から28.4%削減(参考)1999年実績から45%削減	目標達成
一般廃棄物の削減及び再資源化の推進	発生量5,000kg以下 リサイクル率80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資源ゴミ分別の徹底</li> <li>・生ゴミ処理機の使用</li> <li>・現場一般廃棄物の処理適正化</li> <li>・リサイクル可能物品の抽出、明示</li> </ul>	発生量4617kg リサイクル率74.8%	一部目標未達
環境に優しい行動の積極的推進	34点/人 (環境活動をポイント化)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に優しい行動の実施(ポイント設定項目)</li> <li>電力所周辺3S活動</li> <li>徒歩、自転車での通勤</li> <li>私有車運転時の省エネ運転</li> <li>植樹、清掃等環境活動への参加</li> <li>不法投棄ゴミ発見時の通報</li> <li>割り箸リサイクル活動 など</li> </ul>	38.6点/人	目標達成
溢水電力*に繋がる事故障害件数の低減	2003年~2005年の平均から10%削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設備懸案事項の計画的な解消</li> <li>・水車発電機巡視の強化(異常の早期発見、対応)</li> <li>・チェックリスト等による施工不具合の撲滅</li> <li>・再発防止、水平展開の確実な実施(検討体制、原因究明方法等の整備)</li> </ul>	2003年~2005年の71%削減	目標達成
オフィスクリーンの推進	平均85点以上 (チェックリストによる点数化)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オフィスクリーン定着化に向けた取組み(チェックリストを用いた実施状況確認)</li> <li>・文書電子化の推進</li> <li>・発電所書類、倉庫の整理(チェックリストを用いた整理状況確認)</li> </ul>	92.5点	目標達成

なお、「社用車の燃費向上」など活動が定着したものについては、特に目標値は定めず、「維持運用活動」として継続して取り組むこととしています。

\*事故や作業などにより発電機を停止した場合、発電可能な水が河川にあるにもかかわらず、発電に使用されない(資源を有効に利用しない)ことになります。このとき使用されなかった水量を溢水(いっすい)といい、その溢水に相当する仮の発電電力を溢水電力といいます。